社会　（中学校１年）　「世界各地の人々の生活と環境」

1.　授業の実態　　授業校　千葉市立加曽利中学校　　授業者　山﨑　大輔

（１）単元(題材)名　　雨温図の読み取り

（２）本時の目標　　雨温図とはどのようなグラフであるか､そのつくりを理解することができる。
気温と降水量のデータを読み取り、雨温図に表すことができる。

（３）展開

時配	学習活動と内容	教師の支援	評価
導入 (5 分)	○前時の復習 ・どのような気候区分があったか発表する	○全体で一斉に復習する ○本時の学習内容の提示 学習内容：「雨温図」とはどのようなものか理解しよう。	
展開 (40 分)	○雨温図についての基本知識を学ぶ ・説明された内容をプリントに記入する ○雨温図を読み取る ・プリントに記載されている雨温図を読み取り、設問に答える ○雨温図を作成する ・学習プリントにある千葉（2013 年）の気温･降水量データから雨温図を作成する	○東京（2013 年）の雨温図を用いて、グラフについての基本知識を説明する ○ギリシャ・カラマタ（2013 年）の雨温図から数値などを読み取らせる ・挙手・発表させ、答え合わせをする ○千葉（2013 年）の気温・降水量データから、学習プリントに雨温図を作成させる ・正確な値が描けない場合は、大まかなグラフが描ければよいことを指示する ・机間指導を行い、生徒の活動を支援する ○雨温図の作成方法を説明し、全体で確認する	評価① （雨温図の理解） 評価② （雨温図の表現）
まとめ ５分	○本時の学習の振り返り ○雨温図の基本知識について復習する	○コンピューター（Excel）を利用した千葉の雨温図の作成について説明する	

（４）評価

①　雨温図とはどのようなグラフであるか､そのつくりを理解することができたか｡(知識･理解)

②　気温と降水量のデータを読み取り、雨温図に表すことができたか。(技能・表現)

2.　成果と課題

（１）成果

・「基本知識」「読み取り」「作成」と段階的に学習することで、雨温図に対する理解を深めることができた。また、その後の授業内容を扱う際に、雨温図の読み取りを積極的に行うことにつながった。

（２）課題

・授業で扱う雨温図が単年のものであったため、平均化されたものとの差が出てしまったので、適切な資料の選択や補足説明が必要であった。

・本授業の内容を取り扱うために、授業時数をしっかりと確保する必要がある。